

知れば もっと楽しい フェンシング

2020年かごしま国体 × 垂水市わくわくどきどき！夢教室

フェンシングとは、ヨーロッパ中世、騎士道華やかなりし頃、「身を守る」「名誉を守る」ことを目的として磨かれ、発達した剣技。その繊細かつスピーディなテクニックは多くの人を魅了し、時を経て、その剣術を競う「競技」へと昇華されました。今回は、そんな競技としてのフェンシングの魅力と、垂水市の取組をご紹介します。



写真は、1月31日に垂水市文化会館で開催した「垂水市わくわくどきどき！夢教室」での一幕。舞台上でデモンストレーションとして、模範競技を行う鹿児島南高等学校フェンシング部2年の福山濤選手と山本真太郎選手。手前の山本選手の攻撃が見事に決まっている様子。

2020かごしま国体

今から3年後の2020年（平成32年）、鹿児島県で第75回国民体育大会（愛称：燃ゆる感動かごしま国体）が開催されます。鹿児島県での開催は、昭和47年以来、48年ぶりです。国体開催に伴い、県内各市町村が競技会場となり、垂水市では、「フェンシング」と「綱引」「スポーツチャンバラ」の3種目が実施競技として行われます。



知ればもっと楽しい フェンシング

特にフェンシングは、国体における「正式競技」として、都道府県対抗で天皇杯・皇后杯を争う競技に位置づけられています。それに伴い垂水市では、国体に向けての機運を盛り上げ、競技人口の増加と選手育成のため「目指せ未来の国体選手」と

題して、平成27年8月から「フェンシング教室」を開催しています。また今年1月31日には、市内小中学校の児童・生徒を対象とした「垂水市わくわくどきどき！夢教室」において、北京・ロンドンオリンピック銀メダリストの太田雄貴氏を講師に招き、「夢をもつことの重要性」フェンシングとは」と題して講演いただきました。

今月号はフェンシングの 魅力に迫ります

フェンシングは、全国で約5700人（日本フェンシング協会登録者数）以上の方が楽しみ、より高い技術を身に付けるため、日々の練習を重ねています。その一方で、フェンシングについてあまり知らない方も多いのではないでしょうか。今月号では、本市でのかごしま国体のフェンシング競技が開催される前に、その知識を深め、その魅力に迫りたいと思います。